

第16回がん診療提供体制のあり方に関する 検討会	資料2
令和6年12月23日	

医療の質の見える化

QI研究の取り組み

Quality Indicator(QI)研究

がん診療均てん化のための
臨床情報データベース構築と活用に関する研究

【背景】

がん医療の実態を評価する体制が求められてきた

- QI→プロセス指標（標準診療実施率）

$$\text{標準診療実施率} = \frac{\text{標準診療を受けた患者数}}{\text{標準診療の適応となる患者数}}$$

【目的】

- 標準診療実施率を全国の拠点病院等で測定することにより、
 - がん診療の質の向上につなげる
各参加施設へのフィードバック
診療ガイドラインの資料(アンケートの補完) など
 - がん対策に役立てる
標準診療実施率の地域や病院種別による分布 など

【方法】

- 参加同意のある施設から、対象診断年症例のDPCデータを収集し、
国立がん研究センターで院内がん登録全国収集データと結合して解析

【結果】

*継続QI：QI研究開始当初から測定されている項目

- 継続QI*は一般公開、臓器別QIは参加施設と希望のある都道府県担当者に還元

QI項目の作成方法

- 各がん種診療ガイドライン作成委員会など、専門家の協力によりQI項目を提案。
- 提案されたQI項目のデータでの実現可能性を検討。
- 作成したQI項目を測定、随時内容更新。

現在のQI項目数

- 胃(14)、肺(19)、子宮頸(15)、子宮体(17)、卵巣がん(16)
→参加施設+一部都道府県担当者に還元

- 一部がん種の継続QI*(5項目)
→毎年一般公開

*継続QI：QI研究開始当初から測定されている項目

公表している継続QIの解析結果（一例）

対象臓器	分母	分子	2017年症例		2018年	
			532施設		580施設	
			患者数	実施数	患者数	実施数
支持療法	嘔吐高リスクの抗がん剤への3剤による予防的制吐剤		45589	90.9%	48867	90.7%
	催吐高リスクの抗がん剤が処方された患者数	同時に予防的制吐剤（セロトニン阻害剤+デキサメタゾン+アプレピタント）が使用された患者数				
支持療法	外来麻薬開始時の緩下剤処方		17352	59.7%	19020	58%
	外来で麻薬が開始された患者数	同時あるいはそれ以前1ヶ月以内に緩下剤の処方がなされた患者数				

参加施設へのフィードバック方法

- Webシステムを用いて参加施設などに結果を還元
(自施設の各QI実施率、全国での立ち位置を確認可能)
- 有志の施設で未実施理由を確認・登録
→未実施理由を加味した集計値に再計算
- 未実施理由の集計を追記した報告書を作成

Webシステム画面 (例)

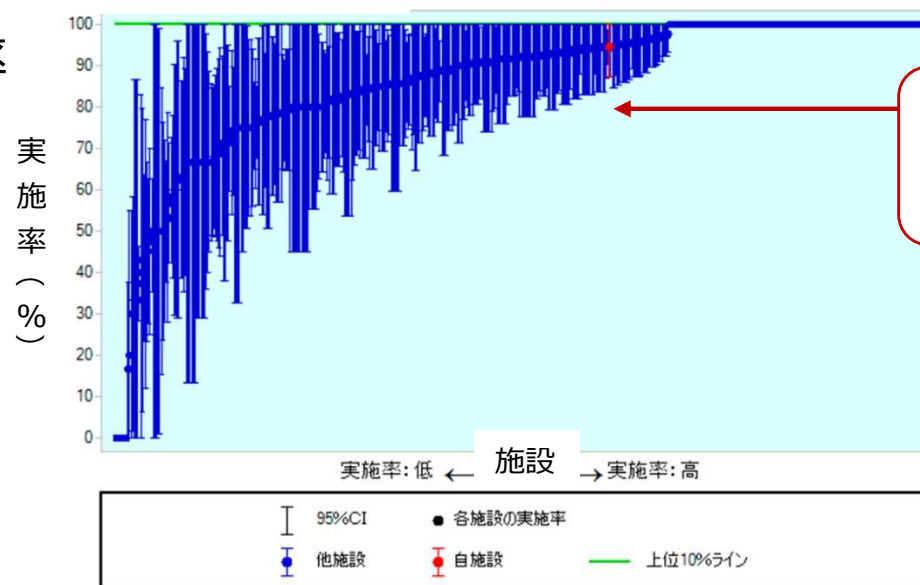
QI-Ig1 IV期の腺癌に対するがん薬物療法前のEGFR遺伝子変異検査

分子 : 初回がん薬物療法開始前にEGFR遺伝子検査が行われた患者数

分母 : 臨床病期IV期の肺腺癌と診断され、がん薬物療法を施行された患者数

グループ全体 : (対象患者数) 9881 (実施率) 81.6% **自施設 :** (対象患者数) 22 (実施率) 90.9%

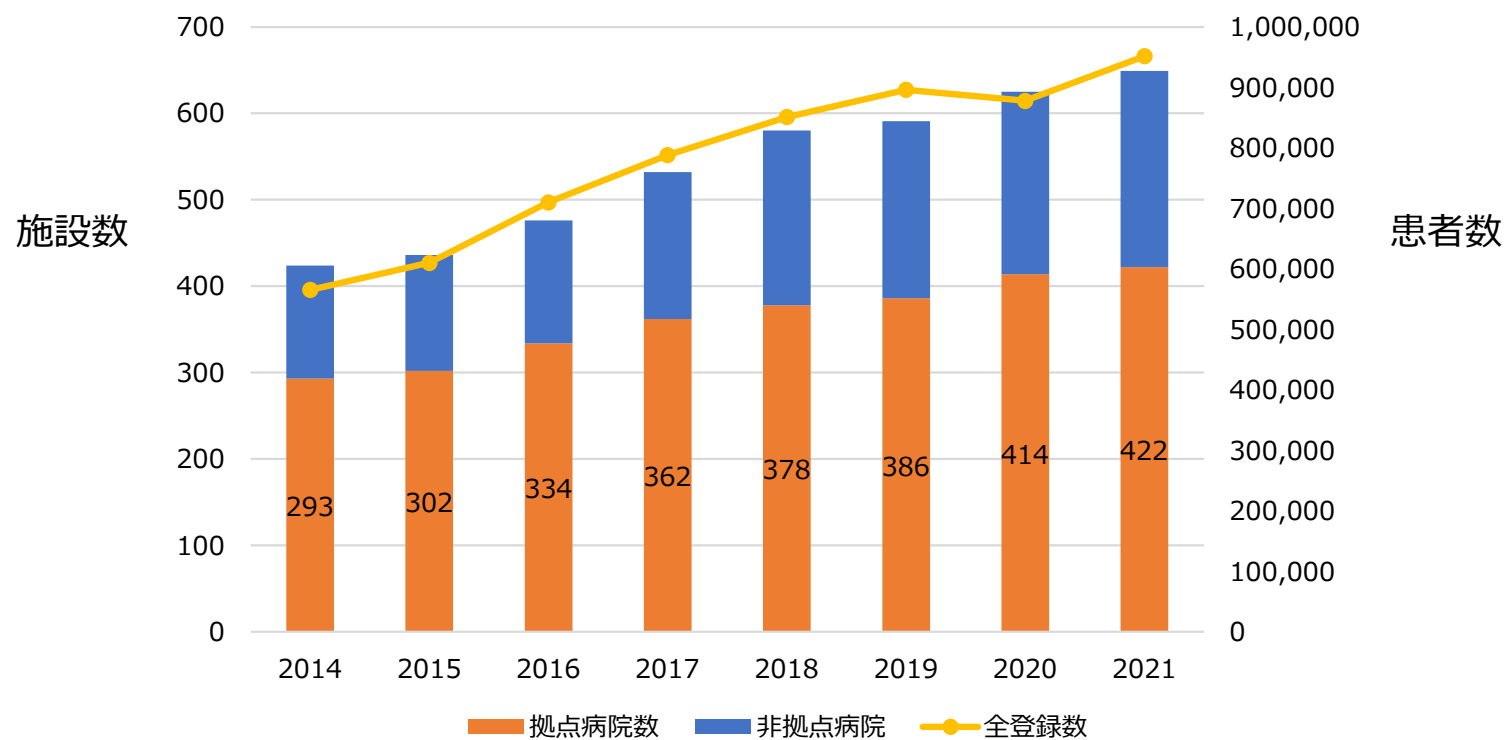
施設別QI実施率
(百足図)



自施設の全参加施設内の
立ち位置を確認

QI研究データ収集状況の経年推移

2021年の参加施設：649施設(拠点病院 422)→951,550件



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
拠点病院のカバー率	69.4%	70.7%	77.0%	82.8%	86.7%	86.5%	92.0%	93.2%
患者数のカバー率	64.4%	65.4%	73.8%	77.4%	81.9%	81.4%	84.4%	86.5%

/院内がん登録
全国収集データ

「病院ごとのQIの見える化の要望」にかかわるがん情報サービス利用者の声（1）

概要

がん情報サービス利用者アンケートの自由記述から「病院ごとのQIの見える化の要望」にかかわる内容を抽出・整理した

分析対象データ

①がん情報サービスポップアップアンケート（実施年度：2021、2022、2024 ※2023年度は実施せず）

「がん情報サービスへのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください」への自由記述

*2021・2022年度は、厚生労働科学研究費「科学的根拠に基づくがん情報の迅速な作成と提供のための体制整備のあり方に関する研究（20EA1008）」で実施

②がん情報サービス常設アンケート（2021年7月～2024年9月収集）

「手に入らなかった情報を具体的にお書きください」への自由記述
表. 分析対象データ

	アンケート 回答総数	自由回答総数	「病院」を含む 自由回答総数	分析対象
2021年度	1,914	821	43	6
2022年度	632	165	11	4
2024年度	1,989	434	19	5
常設アンケート	8,448	2,425	127	24
総計	12,983	3,845	200	39

分析方法 ①②ともに下記の手順で、国立がん研究センターがん対策研究所が実施した

- ・ 「病院」を含む自由記述を抽出
- ・ 抽出した自由記述を確認し、患者が病院を選ぶ際に求める情報が具体的に書かれていると考えられるものを選定
- ・ 選定した自由記述を意味内容に沿って整理し、カテゴリ化

「病院ごとのQIの見える化の要望」にかかわるがん情報サービス利用者の声（2）

分析結果 ※1件は複数の要素を含んでいたため、2つのカテゴリに分類。自由回答の例は、表記を一部変更して記載。

①実施可能な治療・症例数・治療成績などに関する情報（12件）

A：実施可能な検査・治療 「遺伝子パネル検査を実施している病院」「保険を使った免疫療法を行える病院」

B：実績 「各県ごとの専門の病院や手術実績（成功例ではありません）などがわかると良い」「病院の手術数」

C：診療科（専門医）や症例数「病院名と並んで症例数や専門医の有無がページを切り替えることなく見られると良い」

②がん種別の実施可能な治療法・実績に関する情報（10件）

「治療成績が病院によって偏りがあるため、罹患部位に対する手術件数トップ10の病院一覧がほしい。得意な治療、特色の記載が欲しい」

「希少がんの治療実績（どこの病院で、どんな患者がいて、どういう治療をして、予後はどうだったか）という情報がなかった」

③専門病院や受け入れ状況に関する情報（7件） 「住んでいる地域に限らず受け入れてくれる病院」

④治療の副作用／晩期合併症の治療やフォローアップが可能な病院の情報（4件）

「自分の家の近くに有るリンパ浮腫に詳しい病院が有ればと思っていたが見つけれませんでした」

⑤緩和ケアを受けられる病院や具体的なケア内容に関する情報（4件）

「緩和ケア病棟のある病院リストは助かるが、結局それぞれの施設に問い合わせるしかないので、一気に経費までの情報がわかるといい」

⑥病院の設備に関する情報（2件） 「各病院の院内Wi-fiの有無」

まとめ：「病院ごとのQIの見える化の要望」にかかわると考えられる情報やリソース

- 治療の選択にかかわる情報として、病院ごとに実施可能な治療・症例数・治療成績、がん種別の実施可能な治療法・実績、専門病院や受け入れ状況に関するニーズがあると考えられた
- 治療以外のケアや病院設備に関する情報として、治療の副作用／晩期合併症のフォローアップが可能な病院、緩和ケアを受けられる病院や具体的なケア内容、病院の設備に関するニーズがあると考えられた
- 自由記述には「各県ごとの」「病院一覧」「病院リスト」「各病院の」等の記述が見受けられ、各地域別・病院別のQIを一覧で確認できるリソースのニーズがあると考えられた